



明けまして おめでとうございます。

旧年中賜りましたご愛顧に心より厚くお礼申し上げます。

年初早々、円安株高で景気に好影響を与えそうな様子も見られ、昨年よりは少々明るい年明けですが、基本的には我々を取り巻く状態の厳しさは変わらぬと考えて進んで行かねばなりません。

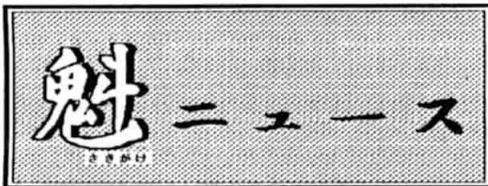
住宅の着工戸数は過去20年の平均が120万戸であり、現状の140万戸台の着工戸数は決して少なくないのですが、足許前年度対比1割近いダウンであること、ハウスメーカーのシェアが高まり中小工務店のシェアが低下している構造的変化など、建築資材の物流の減少に大きな影響を及ぼしております。

これから期待されるものとしては、改修や増改築が伸びると考えられます。来年4月から消費税が上がることも前倒し需要をもたらすのではないかとされており、悪い材料ばかりではありませんから、希望をもって積極的に挑戦することが肝要かと存じます。

私共も本年は原点に戻り、初心にかえって精励する所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

☆ 1月の魁基準建値は345円/kgです

昨年12月の電気銅建値は1ヶ月を通して350円が変わりませんでした。本年1月の電気銅建値は340円でスタートしました。従って1月の魁基準建値は $(350 + 340) \div 2 = 345$ 円です。魁価格帯は300円超350円以下の欄で変わりありません。



蕾はや うす紅梅と わかるほど (野村泊月)

去年より今年は寒い日が多いせいか、梅の開花も多少おくられているようである。梅が咲くと春も間近に感じられるようになり、寒さに縮んでいる身体をちょっぴり伸ばしてみようなどと思うのである。春が待ち遠しい。春がきて暖かくなると人の動きも物の動きも良くなると思えるからである。

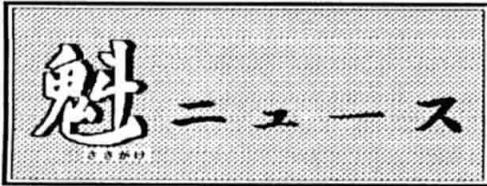
国会でも巷の話題でも住専で賑やかである。金を貸して金利で稼ごうとした所が担保価値の下落で焦げつき不良化したため、放置しておいたら日本の金融体系がガタガタになるから、私企業救済に国民の血税を使うことをあえて承知して欲しいというのが政府の言い分であり、結局はそうせざるを得ないのであろうが、何がどうなっているのか明らかにして国民の理解を得るべきところが不足しているのは否めない。

土地の価格を自由市場の摂理に任せず、締めすぎた弊害を是正する動きがいまだに見られないのもいささか納得のいかないところである。特にいけないのは土地や建物等の資産をニーズの変化に合わせて買い換えることを課税の対象とし流動化を阻害しているのがいけない。企業が激変する時代に合わせて企業体質を再構築するべく有休資産を処分して新しい資産を調達しようとしても、資産の譲渡差益に課税されるから二の足を踏む。個人の住宅でも年寄り2人になって広い土地つき家も不要だから小さなマンションに移り、残り子供の子供の家の購入を手伝ってやろうと思ってもやはり課税の対象になる。本来資産の課税と所得の課税は一線を劃すべきで、味噌も糞も一緒にしているのは可笑的。資産の譲渡所得は買い換えを認めた上で課税すべきで、資産をその折々に適切な資産にかえていくたびに税金をとることは避けるべきである。土地や建物の流動性を高めることは経済活動を活性化することにつながり、金融システムの秩序回復にも少なからず好影響を及ぼすことは疑いない。馬も手綱を締めつ放しでは走らなくなる。手綱をゆるめて走らしたり時には締めたり、手綱さばきを巧みにすることが肝要である。今の状態は馬が走らなくなったのにまだ手綱を締めているに等しい。

さて2月3日は節分。今年こそ鬼は外、福は内と大声で豆をまいて福を呼びこみたいものだ。

☆ 2月の魁基準建値は322円/kgです

1月の電気銅建値は4～9日340円、10～15日330円、16～31日320円で推移し平均銅価は325円78銭でした。2月の電気銅建値は320円でスタートしましたので2月の魁基準建値は $(325.78 + 320) \div 2 = 322$ 円89銭となり円未満切り捨て322円となります。価格帯は300円超350円以下の欄で前月同様変わりません。



奈良東大寺で修二会の行がはじまった。この季節になると雨の日が多くなり積った雪がとけ、地中の生物は冬眠から目覚めだす。樹々の芽もふくらみ小鳥の囀りもひとしお賑やかになってくる。自然界の営みが活気を帯びてくると、我々経済界の営みも活気を帯びてくる。少しは動きも良くなってくると思われるし思いたい。

しかしバブル崩壊後流通構造の変化にはめざましいものがあり、価格破壊といわれるように、国際価格と違う水準で国内価格が形成されメーカーのリーダーシップの下、秩序が保たれていたのは昔の事、今は量販小売店のリーダーシップの下、消費者の低価格志向と商品の供給過剰が重なって流通業界はまさにカオスの世界ようになってきている。小売業界の変化の激しさは私達の住まいのまわりでどんどん進んでいる。例えば最近のホームセンターはDo it yourselfと言っていた時代とは異なり、日曜大工相手の商品を置いておくだけでなくプロ相手の商品を多岐にわたって品揃えしており足場用のパイプなどもおいている。いずれそう遠くない日にアメリカのホームセンターのように中小の建設業者にとって最も重要な資材調達の間になっていくことも考えられ、この分野へ大手資本が進出してくることも遠い話ではなさそうである。

建材商品の場合、メーカー直仕入のハウスメーカーのシェアが高まり店売りルートへのニーズが相対的にも絶対量に於いても著しく低下してきているため、(この現象は阪神大震災後はずみがついた) 卸はメーカーと小売店との間にはさまり一番痛い目にあっているのではなかろうか。零細建設業者はリフォームの分野で活路を開くか、数寄屋作り等特殊技術の分野で生き残るかいずれにしても選択の余地は少なく厳しい。そういう業界を直接間接を問わず得意先としている建材商品の流通は今後急速に変革を遂げていくと言っても言いすぎではない。言葉を換えれば淘汰の時代に入っており、我々はその真っ只中にいるということである。

一流の技術で一流の商品をメーカーが必死の思いで合理化をしコストを下げても、その何倍もの規模の流通コストがかかり価格を押しあげる大きな要因になっている、という認識がメーカーにも消費者にもある。この流通コストは中間業者の搾取によるものではなく、流通が在庫をし仕分けをし運搬するためのコストであり、地価が高く道路が常に混雑し運送に使う燃料費も人件費も世界一高い日本では、価格の中に占めるウェイトが自然高くならざるを得ないのである。しかしウェイトが高いだけにそれは絞りこむ余地が多いにあるということで、このへんの仕組みを変えて行こうという動きがこれから顕著になっていくと考えられる。情報機器の普及もそれを促進する方向に寄与するであろうし、流通システムが新しい時代を迎えるその只中に我々は直面していると戦慄を覚えるこの頃である。

☆『はやぶき』発売開始!!

平葺用成型品として魁（さきがけ）の姉妹商品『はやぶき』を発売いたします。

特長

- (1) ジョイント部の摺みこみが不要 差し込んで引っぱるだけでよい
- (2) エキспанションジョイントが本体にセットされ、あばれを防ぎ毛細管現象を防ぐ
- (3) 作業性に秀でている
- (4) 仕上がりがきれいである

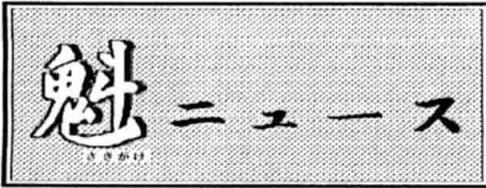
魁（さきがけ）ではできなかったカラステンレスの0.35、0.4、高級表面処理、鋼板の0.35、0.4、銅の0.5などが『はやぶき』では問題なくできます。

カラーサンプル帳・工事店様用価格表・チラシ等、販促用品も近日中にお届けいたします。現物サンプルを見ていただくのが一番と存じます。貴社の営業社員の方々及び工事店様にこの商品の特長をご理解頂くため、貴社において新商品の商品説明会を設営していただきますようお願い申し上げます。

当社では全社一丸となってPR活動に力を注ぎますので、何分のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

☆ 3月の魁基準建値は312円/kgです

2月の電気銅建値は1～18日320円、19～19日310円で推移し平均銅価は325円50銭でした。3月の電気銅建値は310円でスタートしました。従って3月の魁基準建値は $(315.50 + 310) \div 2 = 312$ 円75銭となり円未満切り捨て312円となりました。価格帯は300円超350円以下の欄で変わりません。



桜が咲き、選抜高校野球大会が始まりプロ野球のシーズンも開幕しました。草木も一雨毎に芽吹き、やがて色とりどりの新芽が野山を飾ってくれます。花冷えの日もありますが、すみれやれんげの花が咲く頃になると私達も冬から春への衣替え、少し身体が軽くなるような気がします。

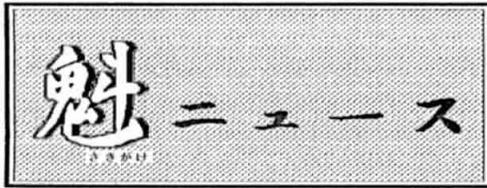
さて、景気の方に春は見えてきましたか。新聞では昨年暮れ頃から上向いてきていると報じていますが、我々の実感とは乖離していてピンときません。まるでよその国の話のようです。これは何故でしょうか。日本関税協会がまとめた資料の通関統計によると、資本財の輸出額は総輸出の60%台になってきています。金属加工用などの一般機械、半導体のパッケージ材料などが伸び、今まで輸出の中心を占めていた自動車、電気等耐久消費財の輸出は20%を割り込んできています。これは日本の世界に対する工業製品供給構造が変化してきていることを示しており、「耐久消費財から資本財に」変わり世界の資本財供給拠点に衣替えしていることを映すものと考えられます。このあたりにわれわれの実感と統計数値が示す景気との間のずれの原因があるのではないのでしょうか。即ち国内の設備投資や消費需要が低迷している一方で、日本が供給拠点となっている資本財の需要は旺盛で、この分野の産業は相当好調な状況が続いているとみられます。私共にとって関連の深い建築現場はクレーンが立ち囲いがめぐるされすぐ目に付きますが、極めて高度化された装置産業、FA化された工場は24時間フル稼業をしても目立ちません。今この分野が外貨を稼いでおり、経済統計に大きい影響をもたらしていると考えられますが、この考察はピントがずれているのでしょうか。

☆ 4月の魁基準建値は318円/kgです

3月の電気銅建値は1～10日310円、11～31日320円で推移し平均銅価は317円でした。4月の電気銅建値は320円でスタートしましたので、4月の魁基準建値は $(317 + 320) \div 2 = 318$ 円50銭となり円未満切り捨て318円となります。価格帯は300円超～350円以下で変わりません。

☆ 空きパレットご返却のお願い。

パレットが空いていませんか。足らなくて困っております。ご返却は最寄りの運送会社で運賃着払いでお引き渡し下さいますようご協力のほどお願い申し上げます。



青葉、若葉の鮮やかな緑に目が洗われ潤うように思えるゴールデンウィーク、皆様にはいかがお過ごしになりましたか。鯉のぼりが泳ぐのを見て菖蒲湯や粽（ちまき）を思い出し、長男が生まれてから妻の両親が毎年粽をたくさん作り、送り届けてくれた慈愛への感謝の念を今更にし、5月5日の節句の由来を調べてみた。

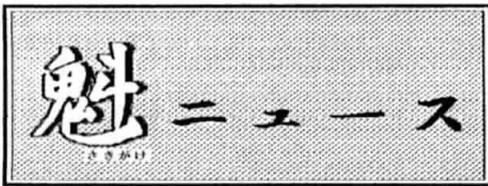
節はときの折り目で1月1日・3月3日・5月5日・7月7日など重日の日を神祭りの日とし神に供える供物を節供といい、この日はハレ（晴）の日で仕事を休んで神を迎え祭り、神前に晴れ着をきて神と共にハレの膳につき祭る日であった。

5月は皐月、つまり早苗月で稲の若苗を田に植える月であった。田植は農家にとって大切な仕事で、田植に先立って田の神を迎え豊穰を祈る。田植の神を迎えるため早乙女は巫女となり、菖蒲や蓬で葺いた屋根の下に香り高い草を敷いておこもりをして穢をはらい、身を潔めた。これを「葺き籠り」といい、男が仕事に出たあと、女が家にこもって斉み暮らすのが5月5日の夜でこれを「女の家」、前夜を「女の夜」といった。「女の家」を終えた早乙女たちは紺の単衣に紺の手甲をして緋のたすきがけ、菅笠をかぶってはればれと田植に出かける。農期の主役は女であり、ケ（褻）の日は仕事にいそしみハレの日は休むので、節句は女性の休養日であった。近松門左衛門の浄瑠璃に「三界に家ない女ながら、五月五日の一夜を女の家というぞかし」とある。この端午（端ははじめの意、端午とは月のはじめの午の日のこと）の節句が男子を中心とする祝いの日へと変わっていったのは、鎌倉時代からといわれる。菖蒲は尚武に通ずるので、武士の間で男子中心の勇ましい行事が行なわれ、江戸時代になると男子の健康と出世を祈って鯉のぼりを立てるようになった。鯉のぼりは一時火災消化の邪魔になると廃止されたこともあり、武者人形・鎧・兜などが飾られるようになった。端午の節句には「柏餅」を食べる。新芽が出ない限り古い葉が落ちないので、家系が絶えないという縁起を担いで、味噌や餡を入れて葉の表を外にするのが味噌入りで、裏を表にするのが餡入りとする。菖蒲であるがサトイモ科のアコルス・カラムス（香りのよい旗の意）で日本では古名を「アヤメ」といって、文目（あやめ）模様から来ており、美しい花を咲かせるアヤメ科の花菖蒲とは品種が違いこちらの方は香りが無い。

5月5日は国民の祝日に関する法律により「子供の人格を重んじ、子供の幸福をはかるとともに、母に感謝する日」と定められており、法律的には5月5日は母の日のように思うが、これは一般に5月の第2日曜日があてられており5月5日は「子供の日」とされている。もうすぐ5月12日母の日がやってくる。豊かな国になり、年中ハレの日のような感じがする昨今、ハレの日の感動を味わえなくなっているのは幸せなことだろうか。不幸なことだろうか考える。

☆ 5月の魁基準建値は 3 3 2 円 / kg です

4月の電気銅建値は1～13日320円、15～30日330円で推移し平均銅価は325円23銭でした。5月の電気銅建値葉7日10円上がって340円でスタートしました。従って $(325 + 340) \div 2 = 332$ 円50銭となり円未満切捨て332円です。魁価格帯は変わりません。



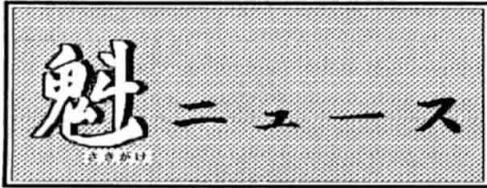
梅雨入りも間近かだが晴れた日は気温が30℃近くまで上がり、まだ暑さ馴れしていないせいか身体が無闇にけだるい。私だけかと思ったら、皆さんも同じことを仰言るからどこも悪いわけではなく、暑さに身体が順応するまではしょうがないことなのかも知れない。

求人市場に変化が出てきたように思う。新卒募集を増員する企業が増えてきており、新聞等の求人広告もひところより増えてきた。来春卒が団塊世代の二世のピークでそれ以降は減っていくから、それをふまえた企業の求人戦略が働いているらしい。しかし女子の大卒はいまだ氷河期のままであるし、50代以上のリストラに伴う転退職の話が身近に多い。厳しさの中に少し明るい面が見えてきたというところであろう。百貨店の売上も本年に入って4ヶ月連続前年比増になり、久しく続いた売り上げ凋落傾向に歯止めがかかったようである。91年のバブル崩壊後地価の下落に始まった景気後退はここへ来てようやく下げ止まり、上昇の機運を漂わせつつ底這ってるといえるかも知れない。円高も目下小休止で、106～108円前後で安定している。企業収益も金利低下と円安が寄与して増益企業が増えている。良くなっても悪くならないと多くの人が認めるようになると投資や消費に力がついてくる。そんな展開が期待出来るようになってきているのかも知れない。

話は変わるが、業界新聞に日本伸銅協会の会長が変わり新会長の抱負が発表されていた。それによると協会として屋根用銅板の需要開発に注力すること、酸性雨が銅屋根に及ぼす影響について、協会としての統一見解を作成発表すると報じられていた。近年屋根用銅板の需要がやや後退気味であり、メーカーとしても何らかの対策を講じる必要性が業界より再三再四寄せられていただけにやや遅きに失したとさえ思われるところであるが、今からでも地道な努力を重ね、百年住宅時代に相応しい素材として愛用されることに繋がって欲しいと願うや切である。

☆ 6月の魁基準建値は325円/kgです

5月の電気銅建値は1～6日330円、7～19日340円、20～22日330円、23～31日320円で推移し平均銅価は330円95銭でした。6月の電気銅建値は320円でスタートしました。従って6月の魁基準建値は $(330.95 + 320) \div 2 = 325$ 円47銭となり円未満切捨て325円となります。従って価格帯は300円起～350円以下の欄で前月同様変わりません。「はやぶき」も同様であります。



住友商事(株)が銅取引に関する相場操作の失敗で、19億ドルの損失を出したと発表されたのを知り、あらためて投機の恐ろしさを認識した。その損失の金額は外電の情報によれば40億ドルとも言われ、会社側の発表した数字とは大きな隔たりがある。住友商事(株)は永年銅の取引で実績を上げ、収益面での貢献度が高く、前浜中部長もその功績で異例のスピード出世コースを歩んでいた。しかし昨年11月頃からアメリカのジョージソロスほか投機筋が売りをかけ住商が買う大仕手戦で蒙った損害が、致命傷になったようである。

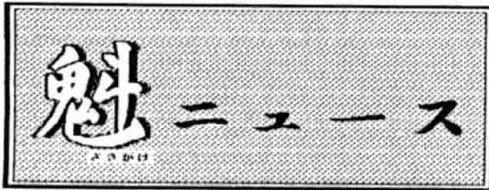
銅取引では産銅会社や電線メーカー・伸銅メーカーなどが実取引を円滑にし、相場変動のリスクを回避するため、先物市場(ロンドンのLME、ニューヨークのCOMEX)を活用することはしばしば行なわれており、市場の存在価値は極めて高い。しかし僅かの資金で多額の取引が出来る点で、極めてリスクの高い投機市場の性格もあり、活用の仕方でも毒にも薬にもなる。住友商事(株)は銅取引量も多く、先物市場取引を上手に使って好成績をあげていた。しかし一度大きな損失を出し、それを取り戻すため更に深みに入り、收拾がつかなくなってしまうのであろう。

世に恐ろしきは博打である。大和銀行の一件といい、最近博打で失敗する企業が多い。博打を常習とする人を博徒というが、我々が知っている博徒は刺青をして賽子や花札で勝負をしておったし、西部劇ではトランプを使っていた。しかし今日では先物市場は何でも扱う。原油・非鉄金属・穀物・羊毛・綿糸などの国際商品の他、為替・金利・債券等凡ゆる種類の先物市場が24時間地球のどこかで必ず開かれている。従って極端に言うならば、博打をしている会社は一杯あり、博打を仕事とするサラリーマンが一杯いるというのが今日の状態である。問題は損失を出したときの歯止めや、罫(かんぬき)が掛かっているかどうかである。

誰でも損をすると平静さを失い、無理を重ねる傾向がある。それを防ぐためには博打を全くしないのがベストであるが、やむを得ずする必要があっても、厳しくチェックできるシステムが働いていないといけない。そういう意味からこの度の住商の一件もその責任は浜中部長にあるのではなく、もっと上の職責の人にあると言いたい。ともあれこの一件で、銅相場はしこり玉の整理に伴う様々な思惑で、落ち着くまで多少の時間を要すると思われるが、実需の世界で仕事をしている立場としては早期の安定を望みたい。

☆ 7月の魁基準建値は283円/kgです

6月の電気銅建値は住商事件の影響を受け、激しく動きました。1～5日320円、6～10日310円、11～13日320円、14～18日300円、19～23日280円、24～30日270円で平均銅価は297円でした。7月の電気銅建値は270円でスタートしました。従って7月の魁基準建値は $(297 + 270) \div 2 = 283$ 円50銭となり円未満切捨て283円となります。魁価格帯は前月より1ランク下がり250円起～300円以下の欄となります。この価格帯になるのは1年振りのことです。



三年続きの猛暑は景気の面ではありがたいことだが、大腸菌O-157騒動で大阪府下の学校や公営プールは全面的に閉鎖され、夏休みの水泳の愉しみが子供達から奪われてしまったことは可哀相である。発生の源や伝染の経路などまだ解明されておらず、個々に気をつけていくより防ぎようもないが、早く鎮静化して欲しいと願うばかりである。

いま、創始100周年にあたるオリンピックがアトランタで開催され、連日日本選手の活躍を中心に、宇宙衛星放送でリアルタイムに観ることができる。時差がマイナス13時間とほとんど正反対のため、観ていると深夜に及び、つい睡眠不足気味になるが、オリンピックを目指して鍛えられてきた肉体が躍動し、極限まで燃焼するさまは実に感動的である。男子陸上100mは最も短い瞬間の勝負であるが、そこに至るまでのことを思い描くと、紙幅に書き尽くせぬドラマがあるのではなかろうか。この100年間に人類は100m競争のタイムを1秒縮めただけである。そしていま0.01秒の単位で記録更新を競っている。きれいなスタートが切られたと思った2回目のスタートも電子の目で計測され、0.01秒になるかならぬかのフライングで失格となったイギリスのクリスティ選手の場合、本人の悔しさは想像を絶するものだろうし、極限を競う世界の厳しさ、冷酷さを見せられた。それにしても総じて黒人の運動能力はすごい。この100m競争でも白人は1名だけであった。どこかの国の元首相が黒人の知的能力を云々するような発言をして物議をかもししたが、運動能力も高いにこしたことはない。

地球における生物の営みは微生物の誕生から人類の誕生に至り、人類の時代になって凡そ100万年になるが、その間に原始的人類が自然環境に対する身体的適応によって進化をなし、生活技術の進歩によって文明社会を作ってきた。現代の人類が今日直面する大きな問題は膨れ続ける人口と自然環境の破壊と汚染である。過去幾多の生物が誕生と絶滅を繰り返してきている。O-157も結核菌も牛馬も人間もすべて生物であり、自然環境が生存を許容しなくなれば、急激に減ったり或いは絶滅するものである。それを防ぐのが文明であり文化であろう。適者生存の世界に変わりはないが、文明が無限に進歩することのない限り、人類の絶滅がないとは言い切れない。そういう事態を防ぐため、何をすべきか考え解決の糸口を見出していくことが文化であり、この分野では日本民族が貢献できる部分が相当にある筈である。運動能力で見劣りは免れないが、知的分野のオリンピックで金メダルに相当するような貢献をするべきである。O-157とオリンピック、そしてこれから始まる恒例の高校野球で話題には事欠かない夏である。

☆ 8月の魁基準建値は267円/kgです

7月の電気銅建値は1～11日270円、12～25日260円、26～31日270円で平均銅価は265円65銭でした。8月の電気銅建値は270円でスタートしました。従って8月の魁基準建値は $(265.65 + 270) \div 2 = 267$ 円82銭となり円未満切捨て267円となりました。価格帯は250円超～300円以下の欄で前月と変わりません。



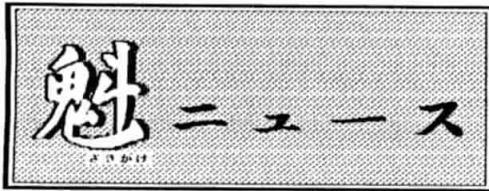
日中はまだ蒸し暑いですが、朝夕は気温も下がり凌ぎやすくなった。久し振りに制服姿の児童や学生を見て、夏が終り秋に入ったことを実感した。もう一年も3分の2を経て、残り3分の1となった。月日のたつのは早いものだが、年々早くなってきているように思う。関西は8月下旬に入って毎日のように夕立があつて庭の水やりもしなくてすむようになったが、関東地方は降雨が少なく給水制限が行なわれていると聞くと、早く秋雨が降って一息入れられるようになって欲しいものだ。

景気は回復に向かいつつあるように言われていたが、どうやら完全に腰折れしてしまった感がする。論より証拠、金利上げの話が引っ込んでしまった。来年は今年よりマイナスになるものが増えて来そうである。倒産や破産の嵐が吹きそうである。これに巻き込まれたら大変である。台風のように来るか来ないか前以て判るものではないが、地震のように突然襲うものでもない。予兆を感ずるか感じないかは、常日頃注意を充分にはらっておれば或る程度感じとれるもので、被害を蒙らずに避ける事も可能なものである。

9月1日は防災デーで、政府や各自治体で災害発生訓練が行なわれた。私達も身近に起きた阪神大震災を教訓として、平素から心の準備を怠らず、非常時に身近に備えておくべき携帯品を揃えておくべきである。懐中電灯や携帯ラジオ・飲み水・携帯食等、リュックに詰めていつでもすぐ持ち出せるようにしておかねばならない。一年間使わずにすんだら感謝して、又新しいものを取り揃えておくようにする。それをする日が9月1日であるように習慣化したいものである。災害は忘れた頃にやってくると言うが、忘れないようにするのが災害から身を守る一番のコツかも知れない。

☆ 9月の魁基準建値は270円/kgです

8月の電気銅建値は1ヶ月間変わらず270円で終始しました。9月の電気銅建値も据置きで、270円で始まりました。従つて9月の魁基準建値は270円となり、価格帯は前月同様250円超300円以下の欄で変わりません。



9月27日は仲秋の名月で、各地で観月会が催されたが関西では数年振りに、澄みきった秋の夜空にかかる満月を賞でることができた。その日私は奈良の猿沢池で行なわれる采女祭（うねめまつり）を見にいった。5時にJR奈良駅前から稚児行列が練り出し、池のほとりにある采女神社で神事が行なわれ、そのあと采女に扮した女性、神官、管弦の楽員などを乗せ、篝火をたいた2艘の竜頭船が池のまわりを取りまく観客の前を2周する。采女神社は、御門の寵愛が冷めたことを悲しんで池に身を投じた采女の霊を慰めるため建立された社であるが、小さな祠で池に背を向けてたっていて、猿沢池を訪れる殆どの人がその存在に気がつかない。しかし采女祭は有名で、地元の企業や商店の協力のもと、奈良の伝統行事として守り続けられている。その他唐招提寺の観月会も境内が開放され催されるが、こちらはまた静かで幽玄である。名月と古都奈良はまことよき組み合わせで、ご興味のある方は是非一度お越しになられたら如何でしょうか。ご連絡下されば喜んでお供させていただきます。

お月見には、秋の七種（ななくさ）と団子その他秋の収穫物をお供えするが、七種は、山上憶良の

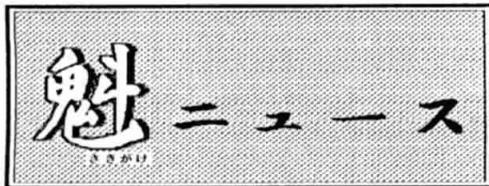
秋の野に咲きたる花を指（および）折り かき数ふれば七種の花
萩が花、尾花（おぼな）、葛花（くずばな）、撫子（なでしこ）の花、
女郎花（おみなえし）また藤袴（ふじばかま）朝貌（あさがお）の花。

という歌に基づいており、春の七草が摘み草の材料を集めているのに対し、秋の七種は眺める花を集めている。朝貌は現在の朝顔のことではなく、桔梗（ききょう）であるという説が有力らしい。

☆ 10月の魁基準建値は261円/kgです

9月の電気銅建値は1～8日270円9～30日260円で平均銅価は262円63銭でした。10月の電気銅建値は260円でスタートしましたので、10月の魁基準建値は $(262.63 + 260) \div 2 = 261$ 円31銭、円未満切捨て261円となります。魁価格帯は250円超300円以下の欄で変わりません。

銅価の見通しについては住商事件の余震を懸念する向きもあり、一段の下落があるとする見方がありますが、一方為替は円安の方向に動いており、価格を上げる方向に作用しますから、まず大きな値下がりはなく、横這い状況が当面続くものと考えられます。



総選挙の結果が出た。小選挙区制と比例代表制の併用という新しい選挙方式で行なわれたので、投票率が高まるかと思われたが、予想に反して棄権率が高く政治不信や政治無関心派がますます増えてきていることを如実に物語っている。小選挙区制は1位のみが当選で、たとえ10万票とつても一票でもトップより少なかったら落選になる厳しさが候補者を必死にさせ、それが投票率の高さをもたらすのではないかと予想していたが、比例代表制という滑り止めのような救済制度があつて戸惑う人が多かったのかも知れない。

小選挙区制にも死に票を沢山生むという問題があり、比例区には小選挙区で法定得票数にも届かなかつた落選者を議員にする等、それぞれに欠陥があることがこのたびの選挙で明らかになった。人間の生みだすものに完全無欠を求めることは無理だが、問題点があれば改善することによってより良い制度にしていかねばならない。幸いに、議員定数の削減を前提とした選挙制度の見直しに着手すると自社さ三党が合意した政策項目にうたわれているが、行政改革を公的に掲げた責任を早急を実現するため、まず国会から範を示して欲しいと思う。

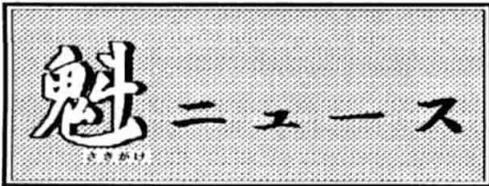
小選挙区制一本では、天下国家の大局で政治を行なうことの出来る議員が乏しくなり、地域住民に媚び基盤産業に媚びる議員ばかりを産む弊害や、与党大政党に有利になり健全な野党が育ちにくいという欠陥がある。比例制には既に参議員選挙でも先例を見てきたが、単に知名度が高きが故に、マスコット代わりに利用されているような議員も選ばれる。比例制の真の狙いは、地域に拘束されず天下国家の大局に立ち政治をする良識ある議員を確保するところにある。従つて悪い選挙制度ではないはずだが、それを活用する人間の自我が悪い面を浮き彫りにさせているといえるだろう。議員個々の利益、集団の利益、党の利益を優先する姿勢が良い制度も悪い制度にしてしまう。世の中つてまあこんなものだとあきらめてしまうと投票に行く気もしなくなってしまうが、そうかといって我々が衆愚にならず良識を発揮する唯一の機会を放棄することはない。

☆ 11月の魁基準建値は267円/kgです

10月の電気銅建値は1~20日260円21~31日270円で平均銅価は264円9銭でした。11月の電気銅建値は270円でスタートしましたので、11月の魁基準建値は $(270 + 264.09) \div 2 = 267$ 円5銭、円未満切捨て267円となります。魁価格帯は250円超300円以下の欄で変わりません。

☆ 建材用銅板・条価格 堅調に推移か。

ご承知のとおり円安は電気銅建値を押し上げる方に作用します。加えて建材用銅板・条を生産する主力メーカー2社は湯沸器や風呂釜向け需要が好調である上に、造幣局より大量のスポット発注があつたため受注が年内一杯になり、納期遅れが避けられない状態になっております。メーカーとしては落ち込んでいるロールマーチンをこの機会に回復させたいと申し入れてきております。以上のような状況からやや堅調な市況が続くものと考えられます。



1996年も残りわずかになりました。本年の日本経済をひとくちで言い表わすなら「重病人が小康状態を保っている。」という状態でなかったでしょうか。円安と超低金利が企業収益に貢献し、消費税改正を控えて住宅着工数が増加したこと等が寄与しているからであろうが、銀行の倒産や末野興産、カネイチなど不動産会社の破産はバブルの後始末が本格化した表れであり、設備投資や消費需要も景気を押し上げるほどの力強さはうかがえず、5%の消費税が97年度から実施される97年4月以降は暫らくマイナスの状態が続き、中小企業の倒産や廃業が多発することが予想され、深刻な不況感が日本全土を覆うのではなかろうか。極めて厳しい97年になりそうな予感がする。

銅業界の96年のビッグニュースは何といっても住商事件である。グローバル化し高度化している経済社会で先物市場はリスクヘッジのため重要で必要な市場であるが、使い方を誤ると博打をしているのと同じことになり、大儲けもあるかわり大損もあって危険極まりないものである。6月末突然の暴落で銅に関係する企業は大なり小なりトバッチリをうけ打撃を蒙ったが、11月半ば頃からLMEの在庫の大幅減少を理由に商品ファンド筋の投機的な取引のため銅価は住商事件の時とちょうど正反対になるような暴騰を演じている。中期的には97年から銅鉱石の需給は生産国の新鉱山の稼働などで緩むとの見通しが喧伝されていたので、銅関連企業は慎重な見方で対処しているが、LME価格はすべての銅取引の指標になるので影響を避けることはできず、激しい価格の動きはまったく迷惑なことである。3ヶ月先物が現物より270ドル/トンも安い逆ザヤになっているのは異常なのでクリスマス休暇に入る頃には鎮静化すると思うが、96年の銅価は1月340円でスタートし7月260円まで落ちたのをボトムに270円前後で横這っていたが11月になって急騰し年初の価格前後に戻って越年することになった。97年の銅価はどうか気になるが、混沌として変化の激しい時代正直いって全くわからない。火傷をしたくなければ弱気であるほうが無難であろう。

最後に本年中賜りましたご愛顧に、心より厚くお礼申し上げますと共に皆様のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。どうか良き新年をお迎え下さいませ。

☆銅と酸性雨についてQ & A集発刊

日本銅センターが酸性雨をはじめとする代表的な質問をいくつか取り上げ、Q & Aにまとめました。銅を上手にご利用いただくため、ご活用下されば幸いです。

☆12月の魁基準建値は310円/kgです

11月の電気銅建値は1~20日270円8~17日280円18~20日290円21~30日310円で推移し平均銅価は290円でした。12月の電気銅建値は330円で始まりました。したがって12月の魁基準建値は $(290 + 330) \div 2 = 310$ 円となりました。したがって魁価格帯は6ヶ月振りに300円超~350円以下の欄となり1ランク上がりますのでご注意下さるようお願い申し上げます。